

「ローマ字のつづり方に関する検討」における今後の主な論点(案)

I 将来に向けてローマ字はどのように用いられていくのか

- 現行の内閣告示は「一般に国語を書き表す場合」を想定
- 最新の国語に関する世論調査の結果では、「日本語をローマ字で書き表す」ことがあると回答した人は3割に満たず、また、そのうちの9割近くが、書き表すことがあるのは「一つの言葉や名前くらいの長さまで」と回答

II どのような「つづり方」にするのが望ましいか

- 現実性（分かりやすく、実際に使いやすく、また、使われるものを示す。）
 - ・ これまでの施策（現行内閣告示等）との整合
 - ・ 実態として広く用いられている表記の慣用（旅券、案内標識等）との関係
 - ・ 難易度への配慮（学習を始める時期との関係等）
 - ・ 斬新なものまで考え得るのか、現状から大きく隔たらないことを意識するのか
- 音韻対応性（日本語の基本的な音韻に過不足なく対応し、体系的に分かりやすく示す。）
 - ・ 表音・発音主義と翻字的要素とのバランスをどう考えるか
 - ・ 長音の区別を分かりやすく表し、かつ、使用しやすいつづり方の検討
 - ・ 外来語に用いられる音に対応するつづり方を取り入れるべきか
 - ・ いわゆるへボン式の撥音（ン）表記におけるnとmの区別の扱い
- 規範性と寛容性（統一的な考え方を示すことを目指しつつ、実態に配慮する。）
 - ・ 現在用いられているローマ字の様々なバリエーションをどの程度認めるか
 - ・ 「許容」の範囲とその示し方
- そのほか、留意しておくべきこと
 - ・ 仮名遣いとの関係（四つ仮名「じ・ぢ・ず・づ」、オ列(段)長音（「公園通り」等）
 - ・ 区切り符号、大文字小文字の使い分け、分かち書き等にどの程度言及するか
 - ・ ローマ字に関する歴史的経緯

III 情報機器へのローマ字入力との関係にどう配慮するか

- 直接の審議対象とはせずとも、一般的なローマ字使用の場面として捉える必要があるか
- オ列(段)長音「公園通り (Kouendoori)」や助詞「～は (ha)」 「～を (wo)」等の入力方法とローマ字つづり(Kôendôri、wa、o) との関係

IV どのように周知するか

- 内閣告示の扱い
- 広報の方法

V 特に重要な個別の問題

- 長音の区別とそのつづり方
 - ・ 「^」と「_」のどちらを用いるか
 - ・ 符号付き文字が使用できない場合を考慮し、長音を示すための新たな方法が必要か
- 外来語に用いられる音との関係
 - ・ 現行内閣告示では「特殊音の書き表し方は自由とする」として整理